

2017年9月 近畿旧友会ハイキングクラブ「燦歩会」例会（第462回）

さんぽかい

コスモスの花咲く 斑鳩三塔を歩く(奈良)

幹事さんのリサーチの結果、「コスモスの花はまだ無理かもしれない」という事で、今回のテーマは一旦、「小泉の里から斑鳩三塔を巡ったあと、ガイドと共に、とことん法隆寺を見て聞いて、全てを知る」という、欲張った贅沢なものになりました。所が、「コスモスも行けるかも……」という事で、急遽、コスモスも復活です。

天候は「秋晴れ、時々曇り」、最高気温は28度に達しましたが、湿度が40%台とさっぱりしているのが救いでした。

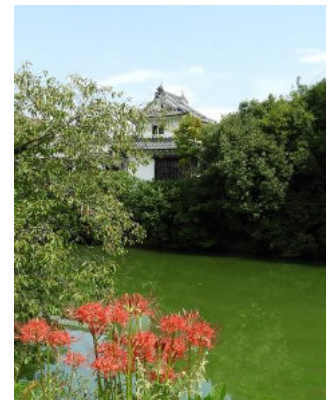
JR大和路線の「大和小泉」駅に10時に集合。
古い佇まいの残る街並みを、歩きます。
そこかしこに、ノボリを立てる町の方の姿がありました。
小泉神社の秋祭りの準備のようです。



朝からの参加者は18名（男性10名、女性8名）。
午後、法隆寺前で2名加わり、5名は別行動になるので、
法隆寺拝観は15名の予定です。

街並みを抜け、庚申堂で柔軟体操の後、小泉城跡を目指します。
小泉城は、富雄川の西側の台地の上に、この地の地侍小泉氏が中世に築き、
同じ有力地侍の筒井氏との争いの中で、城としての形が整えられます。
戦国の世が治まった後、豊臣秀吉に仕えていた片桐且元の弟片桐貞隆が城主となり、
城は「片桐城」とも「小泉陣屋」とも呼ばれたようです。

2代目の片桐貞昌は19歳の時、石見守を拝します。片桐石州です。
京都知恩院の再建の普請を手掛けて能力を認められ、
一方茶人としても優れ、将軍家の御道具奉行、茶道師範を務め、
武家茶道の大家となります。
多くの大名、武家たちが教えを受けて、「武士の茶」石州流として、
盛んになるのです。
片桐家は幕末まで藩主を務め、今も石州流茶道が伝えられています。



往年の面影を留める城跡を巡り、
小泉神社に向かいます。
中世以来、近隣の地域の氏神として、
また城の守り神として
尊崇を集めてきた神社です。

小泉神社は城と同じ台地の上であり、門を出ると西の方向に、二上山から、葛城山、金剛山まで望む事が出来ました。絶景です。



また、右手奥の鉄塔の間、目を凝らすと、かすかに法隆寺の金堂と五重塔も見えました。
(これは望遠レンズで頑張ってみました)



斑鳩では果物も多く作られています。ブドウ狩りも人を集め、路傍の店には、柿もこんなに沢山並んでいました。

重たげに稲穂を垂れた田んぼの間を縫って、法起寺（ほうきじ、ほつきじ）に向かいます。



この地は聖徳太子の岡本宮の跡です。遺児の山背大兄王（やましろおおえおう）が太子の遺言に従い、宮を寺に改めたものと伝えられています。7世紀初めの事です。

三重塔は高さ24m、残された銘文から、706年完成と考えられ、貴重な建築として、国宝に指定されています。

続いて、法輪寺の三重の塔は、7世紀の建築として、国宝に指定されていましたが、1944（昭和19）年夏、落雷のため焼失します。それが再建されて今日のような姿になったのは、1975（昭和50）年の事です。2代にわたる住職の奔走、作家の幸田文さんを始めとする多くの人々の寄進、そして法隆寺の宮大工西岡棟梁らの懸命の努力が実ったものでした。



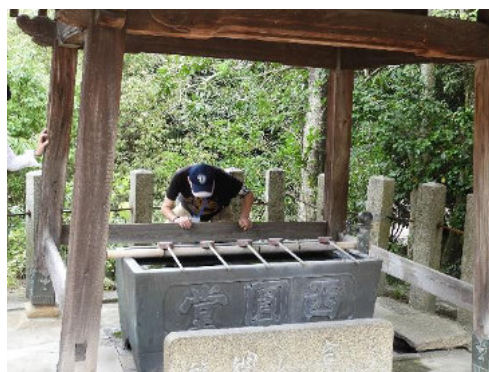
斑鳩の二つの塔を巡り、予定通り13時前に法隆寺の南大門に到着しました。ここから参加する2名を迎えて、全員が揃う唯一のチャンス。集合写真です。五重塔の先端が、わずかに覗いています。



帰宅する(?)5人を見送り、残った15名は法隆寺の徹底拝観です。ボランティアガイドさんの案内で、3班に分かれて、3時間の予定です。私も法隆寺に取材に来たことは数知れずありますが、哀しい事にいつも駆け足で、このように一度にすべてを拝観した経験はありません。

先ず向かったのは、境内の西奥の国宝「西円堂」。普通の拝観では行かないお堂です。奈良時代に行基菩薩が建立したと伝えられ、現在の建物は鎌倉時代の再建です。八角づくりの円堂で、国宝の堂々たる薬師如来像を安置しています。

このお堂で興味深かったのは、柱全面に懸けられた鏡です。(撮影はしていません)女性信者さんからの寄進で増え続ける鏡。その信心を大切に残すために、銅鏡は溶解して手水屋の水盤になりました。裏側に「鏡を溶かして作った」という、江戸時代の銘文がありました。



鏡を溶かして作られたものがもう一つありました。西円堂の脇の鐘楼の鐘です。正岡子規の「柿食へば 鐘が鳴るなり……」の句。その「鐘」は傷みの為すでに引退。次の世代の鐘が、拝観途中に14時の時を告げていました。



その後16時まで、法隆寺の徹底拝観を、たっぷり満喫した燦歩でした。

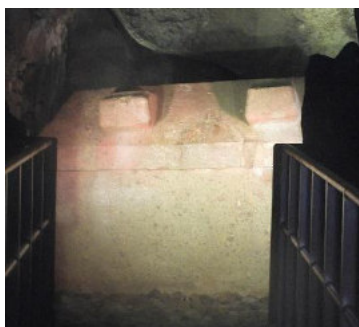
拝観した国宝は、南大門、西円堂、三経院・西室、中門、金堂、五重塔、大講堂、聖霊院・東室、綱封倉、食堂、東大門、夢殿、そして、宝蔵の百済観音など多数。全てを書ききれないのは、まことに勿体ない事です。

* * * * *

解散後の補足です。

西大門から静かな集落を抜け、南下すると藤の木古墳。

1985（昭和60）年から3次にわたって発掘調査が行われ、数多くの貴重な文化財が得られました。当時、報道の末端に連なった者としては、驚きの日々の連続でした。かつて小高い農地だった所が、今ではこのようにきれいに整備されていました。



そして、石室の内部、石棺も、扉の前に建つと明かりが灯り、ガラス越しに見る事が出来るのです。

コスモスもまもなく満開でしょう

* * * * *

ご案内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。

入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、**毎月第4日曜日**に歩いています。メンバーはおよそ50名、その日の都合と体調に合わせて自由参加です。

（事前に予約が必要な場合もあります）

今後の予定

- 10月 吉備路の旅（1泊）
- 11月 京都一周トレイル（9年計画の第1回です）
- 12月 納会
- 1月 道明寺天満宮で初詣（大阪）
- 2月 どんづる峰を訪ねる（大阪・奈良）
- 3月 御坊と道成寺（青春18切符を利用 和歌山）

参加ご希望の方は、山村恵一さんにご連絡下さい。（電話 0743 - 20 - 4159）
一緒に気軽に楽しく歩きましょう。

生島(おじま)幸弥